第3回 安吾賞

2008

ANGO Awards The 3d

安吾賞とは生きざま賞である。

新潟市

安吾×寂聴

安吾の覚悟
日本文化私観

どうしても書かねばならぬこと、書く必要のあること、ただ、そのやむべからざる必要にのみ応じて、書きつくされなければならぬ。

安吾の純情
桜の森の満開の下

彼の手の下には降りつもった花びらばかりで、女の姿は掻き消えてただ幾つかの花びらになっていました。そして、その花びらを掻き分けようとした彼の手も彼の身体も延した時にはもはや消えていました。あとに花びらと、冷めたい虚空がはりつめているばかりでした。

安吾の喝
堕落論

堕ちる道を堕ちきることによって、自分自身を発見し、救わなければならない。政治による救いなどは上皮だけの愚にもつかない物である。

今回、瀬戸内寂聴氏が第三回安吾賞を受賞されたことを聞き、大変嬉しく思った。

坂口安吾は、私がもっとも影響を受けた作家である。青春時代、私は坂口安吾とマルティン＝ハイデッガーに深く影響を受けて、ニヒリズムの生活を送った。坂口安吾ほど大胆に、そして率直に人生と文学について語った作家を私は知らない。彼のあるいは島崎藤村に対する、あるいは小林秀雄に対する批判は決して的外れではない。しかし文壇の権威に対してそのような批判を投げかけるにはよほどの勇気と自信を要する。私は坂口安吾から勇気と自信を学んだ。

瀬戸内寂聴氏も若き日、苦難の人生を送り、そのような苦難の日に、坂口安吾を生きるよすがとしたのであろう。瀬戸内氏も坂口安吾と同様に大胆、率直に人生と文学を語っている。瀬戸内氏は坂口安吾の「弟子」といってよかろう。

そのような瀬戸内氏が安吾賞を受賞されるのはまことにもっともであり、坂口安吾もそれを心から喜んでいるにちがいない。

梅原　猛（哲学者）

坂口安吾撮影：中村正也

第3回安吾賞

2008

新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。安吾の精神を具現し、さまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」。挑戦者を応援する新潟市は、第3回の受賞者として、作家・僧侶の『瀬戸内寂聴』氏を選出した。

新潟市長　篠田昭

第3回安吾賞は、瀬戸内寂聴さんに決定しました。

瀬戸内さんは、作家としての活動を始めた当初、苦境に置かれながらもそれを克服し、見事にその地位を確立されました。

その後も数多くの作品、「源氏物語」の現代語訳やケータイ小説へのチャレンジなど、意欲的に執筆活動を展開する一方、法話や講演などで全国各地を回り、日本中の人に勇気と元気を与えていらっしゃいます。

年齢を感じさせない常に挑戦し続ける瀬戸内さんの全人的な活動は、まさに「安吾賞」にふさわしいといえます。

さらに、瀬戸内さんが一番好きな作家は坂口安吾だということで、今回の受賞を本当に喜んでくださっています。新潟市としても大変嬉しいことです。

また、新潟市特別賞は、ネパール・ムスタンで活動を続ける近藤亨さんに贈らせていただきます。

新潟出身の近藤さんは単身、ネパールの秘境ムスタンに定住。農業開発と技術指導を手掛けるかたわら、学校や病院の建設など、私財を投げ打って、さまざまな奉仕活動を展開しておられます。

情熱と不屈の精神で、ネパール・ムスタンの地から、私たち日本人にメッセージを送り続けてこられたこれまでの活動に敬意を表し、近藤さんにこの賞をお贈りしたいと思います。

新潟市はこれからも、反骨と飽くなき挑戦者魂の安吾精神を発揮する「現代の安吾」に光を当て、安吾賞を全国に発信してまいります。

選考委員長　野田一夫

第3回「安吾賞」の選考を終えて

今年も有力候補者は目白押しで、「安吾賞」は難産が予想されたが、結局は瀬戸内寂聴さんが選考委員たちの圧倒的な支持を得て受賞の運びとなった。

「安吾賞」は"文学賞"でも"地域貢献賞"でもなく、"生きざま賞"である。瀬戸内さんは、その作品によってすでに数々の文学賞を受賞されているが、今回は、作家としての彼女の有為転変の人生そのものが受賞対象となったことに、大きな意義がある。

瀬戸内さんは先日篠田新潟市長と会われた際、「私は『堕落論』を読んで家出したのですから、安吾さんに責任をとってもらわなければ」とおっしゃったそうである。「安吾賞」受賞者としてこれほど生々しい述懐はありえようか…。若く多感な時代、彼女は当時の普通の女性のとうてい真似できない生き方のために、世間の風の冷たさを嫌というほど味わわされたはずだ。が、彼女は決して屈しなかった。

そんな頃、「…人間は生き、人間は堕ちる。…だが人間は永遠に堕ちぬくことはできないだろう。…堕ちる道を堕ちきることによって、自分自身を発見し、救わなければならない。…」という安吾の痛烈な言辞は、いかばかり彼女を励まし、その反骨精神を鼓舞したことであろう。

功成り名を遂げられた後の瀬戸内さんの身の処し方も、常人の成しえない見事なものと言うほかは無い。「全集が出るたびに毎回買っている」というほど安吾が大好きな瀬戸内さんの受賞は、「安吾賞」にとっても特に記念すべきことだと、私には思える。

第3回
安吾賞

作家・僧侶

瀬戸内寂聴

せとうち じゃくちょう

天晴れなり。安吾精神の体現者。

一番会いたかった作家は坂口安吾だと言った八六歳の乙女の瞳はきらきらと煌めいていた。安吾が「堕ちよ！生きよ！」と宣言した「堕落論」が氏の人生を変えたという。プロデビュー作品における表現描写が過激だとして当時批判されるなど苦境におかれながらも、旺盛な創作活動を展開し、女流文学賞受賞など作家としての地歩を築いた。しかし、一九七三年、五一歳にして「現世」をあっさり捨て出家する。彼女にとっての出家とは、決して世捨て人になるのではなく、女でもなく男でもない、社会人でもない見地から人間を見直すことだったのではないだろうか。

どちらが彼岸か此岸か、そのどちらをも行き来しながら、「生きる」ということを独自の眼と筆致で解き明かし、今や名調「寂聴節」は世間を明るく救う。「負」を背負い「負」を笑う、誠に天晴れなり。その生きざまは、「オンナ安吾」を名乗るにふさわしい。

迷いや逡巡を抱えていた
若き日に
私の背中を押してくれたのは
安吾の『堕落論』でした

写真提供：キャレル 2008 年 8 月号　撮影：松永由佳

略　歴

1922年5月15日、徳島市生まれ。
作家／僧侶
東京女子大学国語専攻部 卒業
1956年「女子大生・曲愛玲」で新潮社同人雑誌賞受賞
1961年「田村俊子」で田村俊子賞受賞
1963年「夏の終り」で女流文学賞受賞
1973年 中尊寺（岩手県平泉町）にて出家、法名寂聴
1974年 京都・嵯峨野に寂庵を構える
1987年～2005年　天台寺（岩手県二戸市）住職
1992年「花に問え」で谷崎潤一郎賞受賞
1996年「白道」で芸術選奨文部大臣賞（文学部門）受賞
1997年 文化功労者
1998年 NHK放送文化賞受賞。「現代語訳源氏物語」全巻完結
2000年 徳島市名誉市民
2001年「場所」で野間文芸賞受賞
2006年 文化勲章受章
2007年 徳島県県民栄誉賞受賞。比叡山延暦寺の直轄寺院「禅光坊」の住職に就任
＊最近の著作に佐渡を舞台に世阿弥の晩年を描いた『秘花』（2007年新潮社）

野田×寂聴

いつもヤバイ寂聴さん

野田秀樹

去年、楽屋でお会いしたきりですね。また、同じイギリス人の役者たちと同じ劇場で、芝居をやっています。気が向いたら見に来てください。お祝いの言葉の冒頭で、いきなり業務連絡をさせてもらいました。

そんなわけで、今日はお祝いに駆けつけることができなくて残念です。そのうえ、この賞を、私ごときが先にもらっていてすいません。でもこの賞は、年齢とか文学とか関係なくて、なんか生きざまみたいなものにくれる賞だそうですよ。だから、わたしはとても恥ずかしかったんですが、賞金につられてついつい戴いてしまいました。

寂聴さんは、この賞にまさにぴったりですね。おいくつになられても、いつもやばいことを考えながら、生きていらっしゃる感じですもの。

安吾賞に真打ちが登場したというところでしょうか。心からおめでとうございます。

（二〇〇八年十月六日受賞者発表会に寄せて）

近藤 亨〔受賞の言葉〕

この度、奇しくもかねがねお慕いしていた異色の郷土作家坂口安吾氏の遺徳を称えての〝安吾賞〟第三回新潟市特別賞のお話をいただき、誠に感激に耐えぬ次第でございます。本賞を制定下さった新潟市長篠田昭様並びに市民の皆様本当に有難うございました。

〝ふるさとは語ることなし〟この言葉を最も深く体験している者の一人と自負しているこの老爺は、本賞を御受けした後、再び秘境ムスタンへ旅立ち、彼の地で寒冷と強風に苦しみながら、奉仕の日々を送るのです。そして折につけて望郷の憶いに暮れながらまたこの名言を口ずさむことでしょう。

〝ふるさとは語ることなし〟と。本当に有難うございました。

ヒマラヤの空逝く雲よ伝へてよ
ふるさとを恋ふ燃ゆる憶ひを

平成二〇年八月十九日

略　歴

新潟県立農林専門学校卒
新潟大学農学部助教授
新潟県園芸試験場研究員
76年～92年（定年まで）　国際協力事業団（JICA）の果樹専門家としてネパール王国に派遣
定年後単身ネパール高冷地、秘境ムスタンに定住
92年、ムスタン地域開発協力会（略称 MDSA）を設立し同会理事長に就任。農業振興の傍ら、学校建設（17校）、ネパールで初めての完全学校給食実施、橋の建設、道路整備、98年から病院を建設運営など、余生を傾けた87歳の「挑戦」が続く。
前ネパール王国より2つの勲章を受けるほか、読売国際協力賞、毎日国際交流賞団体賞、米百俵特別賞（長岡市）地球倫理推進賞などの各賞を受賞。
著書：夢に生きる（講談社）・ムスタンの朝明け（かんぽう）・短歌集ムスタンへの旅立ち（新潟日報事業社）・ネパールムスタン物語（新潟日報事業社）など
★テレビ新潟制作の3部からなるドキュメンタリー番組「命の限りムスタンに生きる近藤亨」で番組製作部門でギャラクシー賞受賞。
★06年10月5日、日本テレビの現地取材「笑ってこらえて」：世界で活躍する日本人として紹介される。
★08年2月10日「命の限りムスタンに生きる」第4部テレビ新潟放映

近藤が心血を注いだムスタン農場を
ひと目見ようと、熱心な賛同者が
続々と訪れ、近藤を励ますつもりが
孤軍奮闘している姿に
誰もが逆に励まされた。

近藤 亨（こんどう とおる）

【新潟市特別賞】

NPOネパール・ムスタン地域開発協力会理事長
一九二一年（大正十年）・新潟県加茂市生まれ　八七歳

受賞トロフィー

真理を語る言葉はシンプルである

新潟で生まれ、新潟で農業を覚え、
その技術を携えて、ヒマラヤの奥地に住み、
現地で農業指導をすること三十余年。
ネパールの特産果樹ジュナールの品種改良に成功し、
世界で初めて標高四千メートルの高地での
水稲栽培に成功し、
現地の人々が見捨てて荒野となった広大な農地を、
リンゴやアンズの果樹林に再生させた。
また、ムスタン地域開発協力会理事長として、
新潟を中心とする日本全国の人々に呼びかけて、
ヒマラヤ山麓に多くの小学校や診療所を建設してきた。
近藤亨が歩いてきた道は、
今後、誰も踏み越えることができないだろう。
すでに古稀を過ぎて、
なおもチベットとの国境に近い
ムスタンの地に定住する。
近藤亨は夢を夢のままにしないで、
実現してきた男である。
馬に乗り、果樹を剪定し、メロン、トマト、西瓜を育て、
人知れずヒマラヤに骨を埋めようとしている。
農業は世界言語である。
リンゴの枝の剪定に言語の違いは無い。
近藤亨は自らの実践でそれを教え、
ネパールの人々の生活を支えてきた。
過酷な自然に囲まれたヒマラヤ山麓。
そこで生きること。生き延びること。
そのことのために、まず優れた農業技術を。
近藤亨の生き方と彼の語る言葉はシンプルである。
真理を語る言葉はシンプルである。
まさに、安吾賞（新潟市特別賞）にふさわしいだろう。

佐々木幹郎（詩人）

安吾賞受賞にあたり

安吾の教え　瀬戸内寂聴

『堕落論』の衝撃

北京から日本へ引揚げてまいりましたのが終戦の翌年、昭和二一年七月でした。

その頃すでに坂口安吾さんの「堕落論」が出版されておりまして、私の周囲に集まってきた若い文学青年たちが夢中になって読んでおりました。私も彼らに勧められてそれを読みまして、こんなに面白い本はないと思いました。安吾さんの飾らない文章、無駄のない文章に非常に力強いものを感じて、ひきつけられました。

それまで教えられたことを鵜のみにしてきた私は、敗戦を機に過去のすべてを信じられなくなっていたのです。そんな私に安吾さんの考え方は天来の声と聞こえました。私は堕落論の教えるところに従って家を飛び出しました。ですから、私が今日あるのは、小説家としてこうして皆様の前に立てるのは、すべて「堕落論」の影響でございます。

安吾さんのように思い切った発言は出来ないと思いましたけれども、ふと気がつくと、私は「堕落論」を読んでいなかったらこんなことはしないと思うような、恐ろしいことを次から次にして今日があります。

七〇歳を過ぎてから色々な賞をいただきましたけれども、今度、安吾賞をくださるというお知らせを受けたときには、本当に嬉しかったです。今までもらったどの賞よりも嬉しいと思いました。

それが文学賞ではなくて、私の生き方に対する賞だというお話を受けまして、一層感動いたしました。お手本にされては困るような私の生き方ですけれども、それに賞をくださるというのはやはり安吾的な考え方だと思います。伝統に反対し、権威に反対し、自分の心の命じるままに動いていけばいいと、安吾さんは私に教えてくれました。そのとおりに生きてきた結果、この賞にめぐりあえたのです。本当に心から私はこの賞をいただいたことを光栄に思うし、心から感謝しております。これからも、あと何年生きるか分かりませんけれども、死ぬまで安吾さんの精神で、人が何と言おうが、自分の思うとおり生きていって、自分の言葉でそれを書いていきたいと思っております。

安吾賞を若い人に。

振り返ってみますと、いろいろと間違ったこともしでかしましたし、後悔することもございますけれども、八六歳の今日まで、長く生きていたおかげでこんな思いもかけない賞をいただけるということは、本当に幸せだと思います。

第一回の受賞者の野田秀樹さんは私の仲のいい若い芸術家でございまして、非常に親しく思っておりますが、私がこの賞をもらったことを喜んでくださいました。それも非常にありがたいと思っております。私は若い人が大好きです。

2008年8月12日 新潟にて
写真：坂口綱男

未来は若い人の肩にかかっています。若い人たちがもらった賞を老婆の私がいただくということ、これも若返ったようでありがたく、嬉しいと思います。このあともどんどん若い人にあげてほしいと思います。年寄りはもういいのではないかという気がします。今年は急に受賞者の年齢が上がりましたけれども、やはり「安吾賞」は若い人に与える賞ではないかと私は思います。これからもどんどん若い人にあげていただきたいと思います。

もっと挑戦、もっと反抗。生きるのはいつも命がけ。

先ほども申し上げましたとおり、私は七〇歳をすぎてたくさん賞をいただきましたけれども、どれもありがたいことでありましたものの、「安吾賞」をいただいたほど嬉しい感じはしませんでした。「安吾賞」をいただくというのは私の考えの中に全くなかったのですから、本当にびっくりいたしましたし、大変に嬉しかったのです。長く生きますとさまざまな坂を越えますが「まさか」の坂も越えるようです。今回のことなども全く思いもかけない、まさかでした。人間は死ぬときが分かりませんので、安吾さんはとにかく人間は死ぬものだから、死ぬという宿命をきちんと踏まえて、そのうえで自分のしたいことをしろと教えておられます。

安吾さんの好きな言葉に「命がけ」という言葉がございますが、私もいつも命がけで生きているつもりです。何をするのも命がけ、この年になりますと本当に命がけでないと、ちょっとやそっとのことはできません。ですから、いつも命がけで生きて、書いております。これからは老人じみて慎ましくなどならないで、もっと挑戦的に、もっと反抗的に、安吾精神にのっとって言いたいことを言って、憎まれ口を叩きながら晩年をまっとうしたいと思っております。

受賞者発表会のスピーチに加筆

安吾賞記念盾
監修：小磯稔（新潟大学名誉教授）
彫金：亀倉康之（日展会員、日工会理事）
背景板：『錦塗』新潟市漆器同業組合

賞状：安吾が眺めて思索した日本海と、瀬戸内氏の86歳の乙女心を蝶に託してデザインされた。

ANGO Awards The 3d

【第３回】

安吾賞音信

第3回安吾賞選考会

2008/7/23.24

二〇〇八年七月二三日・二四日の二日間、新潟市で選考委員会が開催され、全国から推薦された約九〇名の候補者の中から選考が行われた。選考委員会では、宣言書にある「権威におもねらず本質を提示するもの」「自らの信念を貫き挑戦し続けるもの」「日本人に勇気と元気を与えるもの」を選考の基本としながら白熱した議論が交わされ、第3回安吾賞は瀬戸内寂聴さんに決まった。

いずれ劣らぬ強者揃いの候補者を前に、熱気を帯びる選考会。（2008/7/23.24　新潟市）

記者会見

2008/8/21

二〇〇八年八月二一日、新潟市において、篠田市長、野田選考委員長、選考委員で安吾ご長男の坂口綱男さんによる受賞者発表記者会見が行われた。「瀬戸内さんは作家として広く評価を得ながらその後出家され、今は執筆活動とともにいわゆる『寂聴節』といわれるような語り口で、講演会やいろいろな場で日本全国の皆さんを勇気づけていらっしゃる。瀬戸内さんの作品や僧侶としての活動などを越えた全人的な存在感は安吾賞にふさわしい」と、その選考理由が語られた。

席上、坂口綱男さんからは「選考委員会ではお盆が近かったため、安吾と安吾の女房の三千代が私の後ろに立って耳に訴えるわけです。そこで、瀬戸内さんのお名前が出たときに『いいんじゃない』という声が聞こえました」と報道陣の笑いを誘った。

また、篠田市長は新潟市特別賞について、「ネパール・秘境ムスタンで活動されている近藤亨さんに差し上げたい。定年後に単身ネパール・ムスタンに定住。周囲からは無謀な挑戦と言われながら、私財を投げ打って現地の食料対策に取り組んでこられた。世界最高地の稲作に成功されたほか、学校や病院の建設など奉仕活動を展開されている。今までの活動に敬意を表し、またさらに活躍していただきたいという思いを込めて、新潟市特別賞を贈ることにした」と述べた。

発表会

2008/10/6

二〇〇八年十月六日、東京都内のホテルにおいて、出版・報道各社、関係者などを招き、瀬戸内寂聴さん出席のもと受賞者発表会を開催した。当日は、第2回安吾賞受賞者の野口健さん、第1回新潟市特別賞受賞者の横田滋さん・早紀江さん夫妻、第2回新潟市特別賞受賞者のカール・ベンクスさんも出席し、壇上でお祝いの言葉を贈った。また、瀬戸内寂聴さんと親しい間柄にあるという第1回安吾賞受賞者の野田秀樹さんからもメッセージが寄せられた。

瀬戸内寂聴さんは「私は『堕落論』の教えるところに従って家を飛び出しました。ですから、私が今日あるのは、小説家としてこうして皆様の前に立てるのは、すべて『堕落論』の影響です。

覚えきれないほどいろいろな賞をいただきましたが、今までもらったどの賞よりもうれしいと思いました。伝統に反対し、権威に反対し、自分の心の命じるままに動いていけばいいと安吾は私に教えてくれました。そのとおりに生きてきた結果、この賞にめぐりあえて本当に感動しております」と語った。

ポスター

授賞式ポスター

受賞者発表会：2008/10/6/ANA インターコンチネンタルホテル東京
上から●過去の受賞者たちと記念撮影。●篠田新潟市長の祝辞。●面会を熱望していた横田さんご夫妻（第1回新潟市特別賞）と。●第2回受賞者・野口健さんと握手。

【第１回】
安吾賞：野田秀樹
新潟市特別賞：横田滋・早紀江
【第２回】
安吾賞：野口健
新潟市特別賞：カール・ベンクス

安吾賞宣言書。2006年2月17日　安吾忌に寄せて

安吾年譜

明治三十九年（一九〇六）十月二十日、父仁一郎、母アサの五男として新潟市西大畑町に生まれる。（本名・炳五）西堀幼稚園、新潟尋常高等小学校（現新潟小学校）へ進む。大正八年県立新潟中学校（現県立新潟高等学校）入学。この頃から学校にもあまり登校せず、ひとり日本海に面する浜辺に寝ころんで空と海と風と波と光とを終日眺め思索した。荒漠たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。

余は偉大なる落伍者となっていつの日か歴史の中によみがえるであろう　大正十一年、中学三年生の九月、落第が決定的となり東京の豊山中学三年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となっていつの日か歴史の中によみがえるであろう」と彫ったという。大正十四年豊山中学を卒業。世田谷下北沢の分教場（現代沢小学校）の代用教員となり自然の中に悪童たちと遊んだ。その体験は『風と光と二十の私と』になる。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。

求道者、安吾　大正十五年、東洋大学印度哲学倫理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教書を読破、睡眠四時間という厳しい修行生活を一年半続け神経衰弱に陥ったが、それを梵語、パーリ語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。

文壇デビュー　昭和六年一月、処女作『木枯の酒倉から』を発表。五月『ふるさとに寄する讃歌』、六月『風博士』を発表、牧野伸一が激賞。七月『黒谷村』を発表、島崎藤村などが賞賛し、新進作家として文壇に認められる。昭和七年の夏、新進女流作家の矢田津世子を知り烈しいプラトニック・ラブに陥り、安吾は懊悩し酒場のマダムなどと同棲するデカダンスな生活を重ね、四年後ようやく彼女と袂別を決意。昭和十三年、新たな決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返し自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』（昭十五）、『木々の精、谷の精』（昭十五）などの新境地をひらく。

小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美　昭和十七年、国粋主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を鵜呑みにすることの欺瞞を指摘した。

堕ち切ることにより真実の救いを発見せよ　昭和二十一年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本質を洞察し、四月『堕落論』、六月に『白痴』を発表。この二編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理観を捨て新たな生き方を指し示す革命的宣言は希望の書となり、『堕落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和二十二年『風と光と二十の私と』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の褌を洗う女』を発表。

戦う安吾　昭和二十五年、『安吾巷談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和二十六年国税局と税金滞納、差押えをめぐって『負ケラレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひとり戦い抜き、同年九月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』（昭二十七）発表。

急逝　昭和三十年（一九五五）二月十七日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やしはじめた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年四十八

安吾賞選考委員

委員長
野田 一夫
(財) 日本総合研究所理事長
多摩大学名誉学長

副委員長
猪口 孝
中央大学教授　法制審議会委員
日本学術会議会員

池田 弘
(学) 新潟総合学園総長

岩里 祐穂
作詞家

齋藤 正行
安吾の会世話人代表
新潟・市民映画館シネ・ウインド代表

坂口 綱男
写真家／エッセイスト
(坂口安吾長男)

古海 正子
日本IBM人事部
GAアシスタントサービスマネジャー

安吾賞推薦人（敬称略 50音順）

青木 邦雄	(財) 東日本鉄道文化財団専務理事
青島 健太	スポーツライター
嵐山 光三郎	作家
安斎 隆	(株) セブン銀行代表取締役社長
稲盛 和夫	京セラ（株) 名誉会長/稲盛財団理事長
植村 鞆音	著述業
内田 力	(株) コロナ代表取締役社長
梅原 猛	哲学者
荻野 アンナ	作家/慶應義塾大学教授（文学部）
角川 歴彦	(株) 角川グループホールディングス代表取締役会長 (株) 角川書店取締役会長
川淵 三郎	(財) 日本サッカー協会キャプテン
菊池 明郎	筑摩書房代表取締役社長
北川 正恭	早稲田大学大学院教授
小林 幸子	歌手
佐藤 忠男	映画評論家/日本映画学校校長
佐藤 信秋	参議院議員
白井 克彦	早稲田大学総長
関川 夏央	作家/神戸女学院大学客員教授
高澤 正樹	新潟放送相談役/日本文芸家協会会員
武田 鉄矢	海援隊
立松 和平	小説家
田中 里沙	宣伝会議編集室長
檀 太郎	CMプロデューサー /エッセイスト
敦井 榮一	新潟商工会議所会頭
中山 輝也	新潟経済同友会代表幹事
野沢 慎吾	セコム上信越（株) 代表取締役
服部 幸應	(学) 服部学園理事長/服部栄養専門学校校長/ 医学博士/新潟市食と花の総合アドバイザー
早野 透	朝日新聞コラムニスト
半藤 一利	作家
火坂 雅志	小説家
福武 總一郎	(株) ベネッセコーポレーション代表取締役会長兼CEO
藤沢 周	作家/法政大学教授
牧 作樹	(株) ティー・ヴィー・キュー九州放送代表取締役社長
松岡 正剛	編集工学研究所所長/ISIS編集学校校長
三潴 末雄	(株) ミヅマアートギャラリーディレクター
三田 ジョンストン 智子	アルビレックスチアリーダーズ・チーフディレクター
三田村 邦彦	俳優
村松 友視	作家
村山 俊晴	日本銀行監事
山口 昭男	岩波書店代表取締役社長
山本 寛斎	デザイナー /プロデューサー

安吾賞賛同者（敬称略 50音順）

渥美 千尋	外務省南部アジア部長 (H20/7/29 からパキスタン特命全権大使)
泉田 裕彦	新潟県知事
内海 桂子	(社) 漫才協会名誉会長
遠藤 実	(財) 遠藤実歌謡音楽振興財団理事長
ジェームス三木	脚本家
篠田 正浩	映画監督/早稲田大学特命教授
瀬戸内 寂聴	作家/僧侶
檀 ふみ	女優
手塚 眞	ヴィジュアリスト
福原 義春	(株) 資生堂名誉会長
松永 二三男	日本テレビ放送網（株) 企画開発担当部長
宮田 亮平	東京藝術大学 学長
(株) 旺文社	

肩書きは平成20年4月1日現在のものです。

Ango
ANGO Awards

第 3 回 安吾賞授賞式　2008年11月19日　新潟市民芸術文化会館

◎授与式　安吾賞　および　新潟市特別賞
◎講演　瀬戸内寂聴「坂口安吾と私」

【安吾賞事務局】〒951-8550 新潟市文化政策課
TEL. 025-226-2563 FAX. 025-230-0450
E-mail bunka@city.niigata.lg.jp
【安吾賞】URL
http://www.city.niigata.jp/info/bunka/ango/
【坂口安吾デジタルミュージアム】URL
http://www.ango-museum.jp